

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	大阪府・河南町	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	河南町文化遺産総合活用推進事業	【計画の改善時期】 平成30・31年度	
4 実施計画期間	平成 25 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>河南町第四次総合計画（平成22年策定）を踏まえ、伝統行事の伝承、歴史的資源を活用して地域の活性化を推進するため、以下の取り組みを実施。また、取り組みを通じて行政と民間団体の連携・協力体制の組織化を目指す。</p> <p>(1) 祭礼に関する総合的な保存継承事業 (2) 山車（地車）劣化部分・化粧幕などの復元改修および公開事業 (3) 映像記録事業</p> <p>※河南町第四次総合計画 (http://www.town.kanan.osaka.jp/choseijoho/sogokeikaku/1394777110382.html)</p>			
6 実施体制			
<p>本事業については、河南町教育委員会が全体計画の企画、調整、事業の指導を行う。</p> <p>担当課 教育委員会事務局 教・育部 教育課：全体の調整、指導</p> <p>また、事業の実施については、次の団体が実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区秋の例大祭保存継承実行委員会 ・構成団体（各地区地車保存会、各地区自治会、各地区青年団など） 			
7 実施計画における目標と期待される効果			別紙①のとおり
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成30年度交付決定額： 48,919 千円	平成31年度申請額： 7,645 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>地域的にまとまって分布する石川型地車を将来に向けて維持し、祭礼技術、地車等修復に要する技術等をまとめて保存継承することができる。また地域住民自らが計画を立てて事業を行うことにより地域にある伝統行事や文化財（地車）の存在と価値を再確認し、地車曳行行事の発展的継承も可能となりえる。地車の復元修復により、墨書きや銘が発見されるなど文化的価値が見出されることもあり、地域住民の地車と伝統的な行事に対する愛着と誇りが深まる。地車曳行はもともと地域の世代間交流や地縁的なまとまりを醸成するものがあつたが、地区外を含めた多くの人々の参加や若者の地元への愛着心を育むことに繋がるのが期待できる。これにより、地域活性化を推進することができる。加えて、行政と地域団体の協力体制と地域団体同士の連携を構築していくことによって、地域コミュニティの維持や活性化に寄与することが可能である。</p>			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：			
事業概要：			
事業概要：			
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
<p>本事業の実施が契機となって町内の文化遺産に対する関心や意識が高まりつつある。この事業を実施することは文化遺産の保存や活用に関する町民の機運を高める契機となる。また構築された自治体と地域団体の協力体制をもとに、事業実施後の地域の文化遺産の悉皆調査に対する地域の協力を得るための基盤と出来る。</p>			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	河南町教育委員会事務局 教・育部 教育課		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	地域の祭礼行事等への入込客数					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 1 :	秋の例大祭宮入行事等の参加者数			関連事業 :	①②④⑤⑦⑨⑩⑫⑬⑮⑱⑳	
目標値 1 :	【現状値】 平成 25 年度 1,800 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 4,000 人					
設定根拠 1 :	復元改修を終えた地車は各地区の誇りでもあり、参加者や見物客を増やすことにつながる。平成28年11月に行われた、町制60周年記念行事の「だんじりパレード」の際には、町の呼びかけに応じて各地の実行委員会が統一組織化された。パレードの参加者及び見物客は12,000人を超え、このように秋の例大祭宮入行事についても、年々参加者が増加し、復元改修を始めた平成25年と比して増加が見込める。					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
2,500 人	2,700 人	人	人	人	人	
32%	41%					
目標区分 2 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 2 :	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 2 :	山車(地車)曳行台数			関連事業 :	①②④⑤⑦⑨⑩⑫⑬⑮⑱⑳	
目標値 2 :	【現状値】 平成 25 年度 17 台 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 17 台					
設定根拠 2 :	祭礼行事への山車(地車)曳行団体の高齢化及び若者の参加が減っており、今後曳行することが難しくなっている。用具等整備、後継者養成を行い、地域の伝統文化・文化財(山車)を保存・継承し、山車(地車)曳行台数の維持を目標とした。					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
17 台	17 台	台	台	台	台	
#DIV/0!	#DIV/0!					
目標区分 3 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 3 :	その他					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 3 :	作成した保存継承記録等の資料の本庁図書館での利用回数			関連事業 :	③⑥⑧⑪⑭⑯⑰⑲	
目標値 3 :	【現状値】 平成 25 年度 0 回 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 20 回					
設定根拠 3 :	保存継承記録等の資料の配布した各機関の中で、本町図書館での利用回数。					
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
9 回	29 回	回	回	回	回	
45%	145%					

事業④：	中地区秋の禮大祭保存継承事業	実施団体：	中地区秋の禮大祭保存継承実行委員会		
事業区分：	後継者養成	事業期間：	平成 26 年度 ～ 平成 26 年度		
事業概要：	五穀豊穡と家内安全を祈願し、中地区を中心に古くは明治時代から山車（地車）の上で俄芝居が奉納され、130年以上の歴史を刻みながら先人から大切に受継がれ、曳行されてきた山車（地車）を未来に残さんと地元の子もたちにも曳行の面白さ・歴史を後世に伝えていく体験曳行と、地区の村方・保存会が中心になって山車・祭礼の歴史を語り、中地区の素晴らしさを再認識する語部事業を実施。				
評価指標区分：	(リストから選択してください。)		(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：					
目標値：	【現状値】 平成 年度 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 人				
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
人	人	人	人	人	人
事業⑤：	中地区秋の禮大祭保存継承事業	実施団体：	中地区秋の禮大祭保存継承実行委員会		
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 26 年度 ～ 平成 26 年度		
事業概要：	秋祭りに使用する地車が経年劣化で傷んでおり、行事で使用する際、安全曳行に支障が出る為、山車復元修理と、刺繍幕復元を実施した。				
評価指標区分：	(リストから選択してください。)		(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：					
目標値：	【現状値】 平成 年度 (単位) ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 (単位)				
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)
事業⑥：	中地区秋の禮大祭保存継承事業	実施団体：	中地区秋の禮大祭保存継承実行委員会		
事業区分：	記録作成	事業期間：	平成 26 年度 ～ 平成 26 年度		
事業概要：	秋祭りにおける地車曳行、囃子について、伝承に必要な映像記録を製作する。学識経験者からなる委員会計3回実施記録、また中地区にとって初めての大幅改修であるため広く町会内外の方にも賛同いただくため、重要な製作工程の写真、説明書での取りまとめたDVDを製作、配布を行う。				
評価指標区分：	(リストから選択してください。)		(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：					
目標値：	【現状値】 平成 年度 (単位) ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 (単位)				
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)

事業⑦：	今堂地区秋の禮大祭保存継承事業	実施団体：	今堂地区秋の禮大祭保存継承実行委員会
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 27 年度 ～ 平成 27 年度
事業概要：	今堂の地車は石川型の地車とされ、地区で140年以上継承されている。経年劣化がすすんでおり、安全曳行を保ちながら禮体祭に今後継承するため劣化部分の復元改修を行う。		
評価指標区分：	(リストから選択してください。)		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：			
目標値：	【現状値】 平成 年度 (単位) ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 (単位)		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
(単位)	(単位)	(単位)	(単位)
事業⑧：	今堂地区秋の禮大祭保存継承事業	実施団体：	今堂地区秋の禮大祭保存継承実行委員会
事業区分：	記録作成	事業期間：	平成 27 年度 ～ 平成 27 年度
事業概要：	地域の貴重な文化財としての今堂地車の価値を見出し、長く記録保存するために復元改修作業の様子や祭礼・曳行をDVDに記録、製作を行い、配布をする。また村内各小中学校で鑑賞をして町内の歴史ある禮体祭を知り、地域の文化的価値のある継承事業を認識していただく。		
評価指標区分：	(リストから選択してください。)		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：			
目標値：	【現状値】 平成 年度 (単位) ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 (単位)		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
(単位)	(単位)	(単位)	(単位)
事業⑨：	白木地区秋の例大祭保存継承	実施団体：	白木地区秋の例大祭保存継承実行委員会
事業区分：	後継者養成	事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 28 年度
事業概要：	五穀豊穰と家内安全を祈願して河南町白木地区を中心に古くは明治時代から地車の上で俄芝居が奉納され、150年以上の歴史を刻みながら先人から大切に受継がれてきた地車曳行を、子どもたちに体験曳行してもらおう。また、地車・祭礼の歴史を語り、白木地区の素晴らしさを再認識する語部事業も実施する。		
評価指標区分：	(リストから選択してください。)		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：			
目標値：	【現状値】 平成 年度 (単位) ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 (単位)		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
(単位)	(単位)	(単位)	(単位)

事業⑩：	白木地区秋の例大祭保存継承					実施団体：	白木地区秋の例大祭保存継承実行委員会				
事業区分：	用具等整備					事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 28 年度				
事業概要：	秋祭りに使用する化粧幕及び山車（地車）が経年劣化で傷んでおり、行事で使用する際に安全曳行に支障が出るため、地車復元修理と化粧幕復元を実施する。										
評価指標区分：	(リストから選択してください。)					(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標：											
目標値：	【現状値】 平成 年度 (単位)					⇒	【目標値】 平成 33 年度 (単位)				
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)						
事業⑪：	白木地区秋の例大祭保存継承					実施団体：	白木地区秋の例大祭保存継承実行委員会				
事業区分：	記録作成					事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 28 年度				
事業概要：	秋祭りにおける地車曳行、囃子について、伝承に必要な製作映像記録を作成。学識経験者からなる委員会全3回の実施記録、及び白木地区所有の山車・化粧幕の復元修復は初めてである為、広く町会内外にも賛同いただくため、重要な製作工程の写真・説明書での取り纏めのDVDを作成、配布する。										
評価指標区分：	(リストから選択してください。)					(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標：											
目標値：	【現状値】 平成 年度 (単位)					⇒	【目標値】 平成 33 年度 (単位)				
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)						
事業⑫：	長坂地区秋の例大祭保存継承事業					実施団体：	長坂地区秋の例大祭保存継承実行委員会				
事業区分：	用具等整備					事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度				
事業概要：	長坂地区に継承されてきた山車や刺繍幕は経年劣化のため損傷が著しい。既存形式・寸歩を踏襲して復元修復を行い、地域の文化財や伝統行事である秋の例大祭を継承する。										
評価指標区分：	・祭礼行事への参加住民数					(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標：	長坂地区の秋の例大祭参加人数										
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 120 人					⇒	【目標値】 平成 33 年度 180 人				
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
160 人	162 人	人	人	人	人						
67%	70%										

事業⑬：	長坂地区秋の例大祭後継者育成事業	実施団体：	長坂地区秋の例大祭保存継承実行委員会		
事業区分：	後継者養成	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度		
事業概要：	小学校高学年から高校生の青少年を対象に、秋の例大祭について、その伝統や意義、具体的な鳴り物技術、俄芝居等を伝承する講座を実施するとともに、山車の体験曳行を行う。				
評価指標区分：	・祭礼行事への参加住民数	(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標：	長坂地区で、秋の例大祭に参加する小学校高学年から青少年の参加人数				
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 10 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 18 人				
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
15 人	16 人	人	人	人	人
63%	75%				
事業⑭：	長坂地区山車及び刺繍幕復元修復記録事業	実施団体：	長坂地区秋の例大祭保存継承実行委員会		
事業区分：	記録作成	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度		
事業概要：	秋の例大祭における祭礼状況、山車及び刺繍幕の復元修復の工程や状況など、例大祭の伝承に必要な映像記録 (DVD) を作成する。また地区での上映会を実施するとともに、DVDを町教育施設ほか、大阪府内の主要図書館に配布及びインターネット公開を実施する。				
評価指標区分：	・記録映像の貸し出し (又は利用) 回数等	(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標：	記録映像の貸し出し (又は利用) 回数等				
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 0 回 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 500 回				
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
121 回	164 回	回	回	回	回
24%	33%				
事業⑮：	石川地域文化遺産用具整備事業	実施団体：	石川地域文化遺産総合活用推進実行委員会		
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度		
事業概要：	一須賀地区の山車 (地車) の経年劣化による損傷が全体に著しく、保存継承と安全曳行を保つため、現存の石川型の形式を保ちながら劣化部分を修復する。				
評価指標区分：	・祭礼行事への参加住民数	(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標：	祭礼準備から曳行に至る中で、その運営にかかわった住民の数				
目標値：	【現状値】 平成 29 年度 150 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 220 人				
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
150 人	185 人	人	人	人	人
0%	50%				

事業⑯：	石川地域文化遺産録作成事業	実施団体：	石川地域文化遺産総合活用推進実行委員会			
事業区分：	記録作成	事業期間：	平成 30 年度 ~ 平成 30 年度			
事業概要：	山車曳行のための祭礼準備風景及び地域の子どもたちにお囃子継承のための教室、また地区の山車の修復工程や伝承を永久記録する。また作成資料を町教育施設や大阪府内の主要図書館に配布し、祭礼文化の継承のすそ野の拡大を図る。					
評価指標区分：	・記録映像の貸し出し（又は利用）回数等			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	平成30年度末に記録作成、府内主要図書館109施設に配布予定のため、H31年度に府内主要図書館各109施設3回の貸出（利用）を目標とする。					
目標値：	【現状値】 平成 29 年度 0 回 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 500 回					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
0 回	4 回	回	回	回	回	
0%	1%					
事業⑰：	中村地域水分神社禮大祭文化遺産記録作成事業	実施団体：	中地域文化遺産総合活用推進実行委員会			
事業区分：	記録作成	事業期間：	平成 31 年度 ~ 平成 31 年度			
事業概要：	建水分神社禮大祭の保存伝承のための映像記録事業。今回修復する山車を曳行するための祭礼準備風景及び地域の子どもたちにお囃子継承のための太鼓教室、祭礼曳行状況、修復に関することなど神山山車の伝承を永久記録する。					
評価指標区分：	・記録映像の貸し出し（又は利用）回数等			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	ネット配信動画の視聴回数					
目標値：	【現状値】 平成 30 年度 0 回 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 700 回					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
0 回	0 回	回	回	回	回	
0%	0%					
事業⑱：	中村地域水分神社禮大祭文化遺産神山山車修復用具整備事業	実施団体：	中地域文化遺産総合活用推進実行委員会			
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 31 年度 ~ 平成 31 年度			
事業概要：	秋祭りに使用する山車が経年劣化で傷んでおり、行事で使用する際、安全曳行に支障が出るため、文化財の保存継承・祭礼行事の継承と安全曳行を保つため劣化部分を修復する。					
評価指標区分：	・祭礼行事への参加住民数			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	祭礼準備から曳行に至る中で、その運営にかかわった住民の数					
目標値：	【現状値】 平成 30 年度 150 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 170 人					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
150 人	150 人	人	人	人	人	
0%	0%					

事業⑱：	各地区文化遺産記録作成事業				実施団体：	各実行委員会	
事業区分：	記録作成				事業期間：	平成 32 年度 ～ 平成 33 年度	
事業概要：	祭礼状況、山車等の修復の工程などを映像記録として作成する。記録資料は町教育施設のほか、大阪府内の主要図書館へ配布し、またインターネット動画サイトに公開する。						
評価指標区分：	・記録映像の貸し出し（又は利用）回数等				（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	映像記録の貸し出し（利用、再生）回数等						
目標値：	【現状値】 平成 30 年度 回 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 回						
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	平成 36 年度
回	回	回	回	回	回	回	回
事業⑳：	各地区文化遺産用具等整備事業				実施団体：	各実行委員会	
事業区分：	用具等整備				事業期間：	平成 32 年度 ～ 平成 33 年度	
事業概要：	各地区の山車（地車）は経年劣化による損傷が著しいため、文化財の保存継承、祭礼行事の継承と安全曳行を保つため、劣化部分を修復する。						
評価指標区分：	・祭礼行事への参加住民数				（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	各地区秋の例大祭に参加した人数						
目標値：	【現状値】 平成 30 年度 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 人						
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	平成 36 年度
人	人	人	人	人	人	人	人